

OpenAIの新AIモデル「Garlic」と「Shallotpeat」の最新動向

背景と目的 – 激化するAI競争への対応

OpenAIとGoogleの間でAI開発競争が激化する中、OpenAIは内部的に「コードレッド」を宣言し、対抗策として新たなモデル開発に着手しています¹²。その中核となるのが、大規模言語モデル（LLM）の新コードネーム「Garlic（ガーリック）」と「Shallotpeat（シャロットピート）」です。これらはGoogleの最新モデル「Gemini 3」やAnthropic社の次世代モデル（Opus 4.5と呼ばれるもの）に対抗し、OpenAIが失いつつあるリードを取り戻す目的で開発されています³¹。特に「Garlic」はGemini 3やAnthropicのモデルに劣らない高度なコーディング能力や推論性能を持たせることを狙っており、社内評価では既にこれら競合を上回る結果を示していると報じられています³。一方、「Shallotpeat」はモデルの訓練手法そのものを見直し、事前学習の段階で生じた欠陥を修正することを目的としたプロジェクトで、OpenAIが直面した性能伸び悩みの課題に対応するための基盤的モデルと位置付けられています⁴⁵。

モデルの特徴と技術的進歩

Shallotpeat – 事前学習の刷新と高い推論力

「Shallotpeat」はOpenAIが内部テスト中の実験的な新モデルで、**既存モデルの弱点克服と次世代性能の実現**を目指しています⁶。技術詳細は未公表ですが、初期報道によれば以下のような**大幅な性能向上**に焦点を当てているとされます⁷：

- ・より強力な推論能力の獲得（複雑な問題でも論理的に考え抜く力）⁷
- ・長文や文脈の深い理解力の向上（長い文章でも意味を正しく把握）⁷
- ・「幻覚」と呼ばれる誤回答の減少（回答の正確性・一貫性の強化）⁸
- ・高度な問題解決能力の向上（複雑な課題に対する正解率アップ）⁷

こうした改善により、Shallotpeatは従来モデルより一段と精度と信頼性が高まった**メジャーアップデート版**になると期待されています⁸。専門家はこのモデルに**メモリ（コンテキスト保持）能力の改善**や**対話の自然さ向上**、**創造性豊かな応答**、**回答の一貫性強化**なども盛り込まれると予測しています⁹。実際、Shallotpeatの開発背景には「GPT-5」のスケーリング途中で最適化が頭打ちになった反省があり、**基礎となる事前学習データや手法の欠陥を徹底的に洗い直す**試みとされています¹⁰¹¹。コードネームが「シャロット（エシャロット）はピート（泥炭土）では育たない」という比喻に基づくように、**AIモデルの“土壌”にあたる訓練基盤を改良し直す**意図が示唆されています¹²。総じてShallotpeatは、**AIモデルの基礎体力を底上げし、将来のスケールアップに耐えうる土台を築く**戦略的プロジェクトと位置付けられます¹³¹¹。

Garlic – 高度なコーディングと推論能力を備えた対抗モデル

「Garlic」は、上記Shallotpeatで得られた改良をも踏まえて**実用化に向け急ピッチで開発が進む新LLM**です。その最大の特徴は、**高度なプログラミング支援能力と複雑な推論タスクへの対応力**にあります³。例えば**コードの生成・デバッグ**などソフトウェア開発分野での性能や、長い手順を伴う問題解決・推論力で**Google Gemini 3に肩を並べるか凌駕**することを目標に掲げています³¹⁴。内部関係者によれば、Garlicは社内ベンチマークで既にGemini 3およびAnthropicの次世代モデル（Opus 4.5とされる）を**特にコーディングと論理推論タスクで上回る性能**を示しているとのことです³。技術的にも、**Shallotpeatで修正された事**

前学習上のバグやノウハウを取り入れることで、比較的コンパクトなモデルでありながら“大規模モデル並み”の知識と汎用性能を発揮できるよう工夫されていると伝えられています（Googleのモデルが巨大全パラメータで性能を伸ばしているのに対抗するアプローチ）^{5 11}。また、Gemini 3が画像・音声・動画まで扱うネイティブなマルチモーダル能力と超巨大なコンテキスト長を備えるのに対し^{15 16}、OpenAI側のGPT-5世代モデルもテキストだけでなく画像や音声など複数モーダルの理解・生成に対応しており¹⁷、Garlicもそれらマルチモーダル対応力を強化してリリースされる可能性があります。実際、OpenAIが公開しているGPT-5は視覚情報や空間的推論を含む幅広いマルチモーダル評価で高い成績を示しており、チャート画像の解釈や写真の要約といった視覚・言語複合タスクでも精度が向上しています¹⁷。したがってGarlicも競合に遜色ない統合型AIモデル（テキスト・コード・画像などを一体で処理）として登場すると見られます。総じてGarlicは、OpenAIが短期的にChatGPTの能力強化・巻き返しを図る切り札となるモデルであり、コードネーム通り「一味加えて」ChatGPTを強力にするアップグレード版と位置付けられます²。

リリース時期と開発状況

「Garlic」は現在開発が急がれており、**2026年初頭（第1四半期）にもリリースされる可能性**があると報じられています¹⁸。具体的には、OpenAI内部で「できるだけ早く公開したい」との声が上がっており、場合によっては「GPT-5.2」あるいは「GPT-5.5」という位置づけで**2026年初め頃に投入**される見通しです¹⁹²。既にOpenAIのMark Chen最高研究責任者が社内でもこの新モデルについて言及しており、性能評価も佳境に入っている模様です³。一方、「Shallotpeat」はあくまで次世代の基盤技術を育てる内部プロジェクトであり、公式にリリース日程は明らかにされていません²⁰。通常、OpenAIの新モデルは数か月にわたる内部テストを経てから限定的なベータ提供に入り、その後ChatGPTやAPIとして一般公開されます²⁰。Shallotpeatも同様に、まずは社内検証と改良ループを重ねた上で、しかるべきタイミングで次世代モデル（おそらく「GPT-6」相当）の形で世に出てくると予想されます²¹。2025年11月時点の情報では既に社内テストが始まっているとのことなので²²、**2026年以降のリリースを視野に入れた開発段階と推察**されます。いずれにせよ、OpenAIは**短期決戦用のGarlicと長期的革新を狙うShallotpeat**という二本柱で開発を進めており、それぞれリリース計画も異なるタイムスケールで動いている状況です。

コードネームの由来と背景

OpenAIは開発中プロジェクトにユニークなコードネームを付ける慣習があり、「Garlic」「Shallotpeat」もその一環です²³。これら名称自体に技術的意味が直接含まれるわけではありませんが、社内での開発段階を示す符牒として使われます²³。例えば「Shallotpeat（エシャロット+泥炭）」という名前は前述のとおり、「**痩せた土壌ではエシャロットが育たない**」という比喻から着想を得たものと見られ¹²、**モデルの基盤（土壌）を改良するプロジェクト**であることを示唆しています。また、「Garlic（ニンニク）」について公式な説明はありませんが、Shallotpeatと同じく**食材系のコードネーム**で統一されている点が興味深いです。SNS上では「Garlic（ニンニク）は吸血鬼を追い払う＝Googleという“脅威”を撃退する意味ではないか」というユーモラスな推測も見られました²⁴が、実際には**OpenAI内部でのプロジェクト識別用ネーミング**に過ぎず、深い意味はない可能性があります。ただし過去にも、OpenAIは「Strawberry（イチゴ）」というコードネームの研究プロジェクトを持っていたとされ、それが後に高度な推論モデル群の技術基盤になったとの指摘もあります²⁵。このように**果物や野菜にちなむコードネーム**が続いていることから、GarlicもShallotpeatからの連想で付けられた内部呼称なのでしょう。重要なのは、その名称が示すように**Shallotpeatは根本的な改良（土壌作り）、Garlicは表側の強化（スパイスを効かせる）**という役割分担がなされている点です。コードネームはユニークですが、OpenAIの狙いを端的に象徴していると言えます。

OpenAIの戦略的意図

OpenAIがこれら新モデルに注力する背景には、**AI競争における主導権を維持・奪還する戦略**があります。2025年末時点でGoogleのGemini 3が多くのベンチマークでGPT-5.1を凌駕し業界トップに躍り出たことで、OpenAIは**一時的な出遅れと経済的逆風**を認めざるを得なくなりました^{26 27}。Sam Altman CEOは社内メ

モで「向こうしばらくは rough vibes（厳しい雰囲気）になる」「一時的な経済的逆風に直面しうる」と警鐘を鳴らす一方、「しかし我々は素早く追いついて再びリーダーになる」との自信も示しています ²⁶ ²⁸。この巻き返しのための戦略がまさに **Shallotpeat** と **Garlic** の開発です。Garlic で短期的に ChatGPT の **推論力・コーディング力を強化** し、ユーザー体験や法人向け機能で競合に見劣りしない水準に引き上げる ³ ²。その一方で、Shallotpeat によって **AI モデルの基礎技術を飛躍的に改善** し、中長期的にはさらに画期的なモデル（いわゆる GPT-6 やそれ以上）で **競合を上回る革新** を起こそうという二段構えです ¹¹ ¹³。

Altman 氏は「短期的な競争圧に晒されても、より野心的な賭けに注力することが肝要」と社員に強調しており、具体的には **AI そのものによる研究の自動化**（自己改良する AI の研究）や **真の汎用人工知能（スーパーインテリジェンス）の実現** といった長期目標にリソースの大半を振り向ける方針を示しました ²⁹ ³⁰。これは「**目先の Gemini 3 に一時追い抜かれても気にしすぎるな。我々はもっと大きな賭け（ブレイクスルー）に挑む**」という戦略的メッセージです。実際、OpenAI の研究チームの大部分は次世代のブレイクスルー（人工総合知能の達成）に集中しており、Garlic のような **対抗モデルの早期投入** と、**Shallotpeat のような基盤革新を両立させることで短期・長期のバランスを図っている**と考えられます ²⁹ ³¹。また、Microsoft 以外のクラウド事業者とも提携して巨額の計算リソースを確保するなど（例：Oracle や SoftBank との Stargate 計画）インフラ面の強化も進めており ³²、**資金・計算資源・研究開発力を総動員して次世代モデル開発に賭ける姿勢**が鮮明です。

要するに、「**Garlic**」と「**Shallotpeat**」は OpenAI の攻防両面にわたる戦略の鍵となっています。Garlic で目前のライバルに応戦しつつ、Shallotpeat で次の飛躍の種を蒔く——この両輪で OpenAI は AI レースの主導権を引き続き握ろうとしているのです ¹⁴ ¹¹。

Sources:

- OpenAI 開発中の新モデルに関する報道 ³³ ⁵ ⁴
- The Information や Bloomberg による内部メモの分析 ¹¹ ³⁰
- 技術メディア記事（The Decoder, Xpert Digital 等） ¹⁰ ¹³
- OpenAI 公式発表（GPT-5 システムカード等） ¹⁷

¹ ¹⁸ OpenAI Develops New AI Model Called 'Garlic' to Compete Against Alphabet's (GOOGL) Gemini 3 - TipRanks.com

<https://www.tipranks.com/news/openai-develops-new-ai-model-called-garlic-to-compete-against-alphabets-google-gemini-3>

² ¹⁵ ¹⁶ The AI Arms Race Intensifies: OpenAI Declares 'Code Red' as Google's Gemini 3 Reshapes the Landscape

<https://markets.financialcontent.com/wral/article/tokenring-2025-12-2-the-ai-arms-race-intensifies-openai-declares-code-red-as-googles-gemini-3-reshapes-the-landscape>

³ ¹⁴ ¹⁹ ³³ OpenAI develops new model codenamed Garlic to compete with Google - The Information By Investing.com

<https://ca.investing.com/news/stock-market-news/openai-develops-new-model-codenamed-garlic-to-compete-with-google-the-information-93CH-4344568>

⁴ ²⁷ ²⁸ ³⁰ sam altman memo: OpenAI CEO Sam Altman's big warning to employees in his leaked memo: 'Google has been doing excellent...' - The Economic Times

<https://economictimes.indiatimes.com/news/new-updates/openai-ceo-sam-altmans-big-warning-to-his-employees-in-his-leaked-memo-google-has-been-doing-excellent-/articleshow/125499902.cms?from=mdr>

⁵ ¹⁰ ¹² ²⁶ As Google pulls ahead, OpenAI's comeback plan is codenamed 'Shallotpeat'

<https://the-decoder.com/as-google-pulls-ahead-openais-comeback-plan-is-codenamed-shallotpeat/>

6 7 8 9 20 21 22 23 OpenAI new model is codenamed 'Shallotpeat'

<https://voice.lapaas.com/openai-new-model-is-codenamed-shallotpeat/>

11 29 OpenAI Shallotpeat Targets Gemini 3

<https://www.aiplanetx.com/p/openai-shallotpeat-targets-gemini-3>

13 31 32 Project Shallotpeat and ✂ Rough times: Sam Altman's internal memo reveals OpenAI's biggest crisis

<https://xpert.digital/en/project-shallotpeat/>

17 Introducing GPT-5 | OpenAI

<https://openai.com/index/introducing-gpt-5/>

24 25 The Information: OpenAI's new model is codenamed "Garlic". Internal benchmarks show it beating Gemini 3 and Opus 4.5. : r/OpenAI

https://www.reddit.com/r/OpenAI/comments/1pcki7k/the_information_openais_new_model_is_codenamed/